

COLUMN

投資環境資料

2010年3月3日発行



社団法人ロシアNIS貿易会・ロシアNIS経済研究所 次長
服部 倫卓

激減した日ロ貿易

過去最大の縮小

日本財務省は今般、2009年の日本の貿易統計を発表しました。そこで、この統計にもとづき、2009年の日本とロシアの貿易動向につき、ご紹介したいと思います。

2009年の日ロ貿易は、輸出入合計で121億4,855万ドルとなりました（日本財務省の統計を米ドル換算、速報値、以下同様）。これは、前年比59.0%の縮小です。とくに輸出の落ち込みが激しく、前年比79.8%減の33億68万ドルに終わりました。輸入の落ち込みはそれよりは小幅ですが、それでも前年比33.4%減であり、88億4,787万ドルにとどまっています。

いずれも、日ソ/日ロ貿易の時代を通じて、史上最も大きな縮小率を記録した格好です。2008年夏まで続いてきたバブルの反動という側面が大きいにせよ、日ロ貿易にとって2009年が不振を極めた1年だったことは間違いないでしょう。

ちなみに、「日ロ貿易は不振の時は日本側の入超となる」という法則があります。2009年の日ロ貿易もその法則どおり、55億4,720万ドルと過去最大の日本側の入超となりました。

日ロ貿易のパフォーマンスをより細かく、月別に跡付けると、2008年9月のリーマン・ショックを受け、同年11月頃から縮小が始まり、半年ほど激しい落ち込みが続きました。ただ、底だったのは2009年の春頃であり、それ以降は緩慢ながら回復に向かっています。

当資料は、情報提供を目的として作成した参考資料であり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、当社が信頼できると思われる情報に基づいて作成しておりますが、その正確性及び完全性を保証するものではありません。当資料中の第三者のコメントは著作個人の見解であり当社の運用方針等とは関係無く、また、その内容について当社が責任を負うものではありません。当資料の市場見通し及び金融指標等に関する予測値について、当社が将来の結果を保証するものではなく、また将来予告なく変更されることがあります。当資料中のいかなる情報も将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、あくまで参考として述べたものであり、その銘柄または企業の株式の売買を推薦するものではありません。当資料に関する著作権は情報提供元のクレジット記載があるものを除きすべてドイチュ・アセット・マネジメント株に属しますので、当社に無断で資料の複製、転用等を行うことはできません。D-100302-10

Deutsche Asset Management
ドイチュ・アセット・マネジメント株式会社
A Member of Deutsche Bank Group



COLUMN



自動車輸出の不振

日本側の輸出に着目すると、近年、日本の対ロシア輸出に占める自動車の比率が高まり、中古車や商用車も含めれば、2008年の時点で全体の4分の3を占めるに至りました。2009年に日本の対ロシア輸出が(ひいては日ロ貿易全体が)急激に縮小したのは、まさにこの最重要品目が一転して不振に陥ったからです。最も重要な品目である新車の乗用車に関して言えば、2008年の輸出が45.8万台(85.6億ドル)であったのに対し、2009年の輸出は5.4万台(10.3億ドル)にとどまりました。また、中古車の輸出も、ロシア側の関税引き上げで、新車以上の打撃を受けています。ただし、自動車部品やタイヤのように、自動車関連でますます健闘している品目もあります。

LNGの輸入開始が朗報

次に、輸入について見てみましょう。2009年に日本の対ロシア輸入が大きく減ったのは、日本側の不況による需要減もさることながら、資源・コモディティ価格の下落によって総額が押し下げられたという側面が大きいと思われます。その典型が原油であり、2009年の輸入量が前年を14.0%上回ったにもかかわらず、輸入額は29.2%縮小しました。

そうしたなかで、2009年の日ロ貿易における最大のトピックは、サハリン2の液化天然ガス(LNG)プラントが稼動し、そのLNGが4月から日本に入荷し始めたことです。2009年通年では、277万トン、9.5億ドルのLNGが輸入されており、同品目は早くも日本の対ロシア輸入の約1割を占めるに至っています。

